

グラナリアコクゾウムシの飼料による体長変化

技術の特徴

グラナリアコクゾウムシは、ヨーロッパ等の比較的寒冷な地域に住む大型のコクゾウムシです。コムギやトウモロコシなどの穀物類を主に食害することから、我が国では植物防疫法で検疫対象に定められています。本研究では、玄米(ジャポニカ種)を飼料にした際の体長変化を調べ、中型種であるコクゾウムシと外観を比較しました。

研究の内容



コムギ:長さ 約6.2 mm コメ(ジャポニカ種:コシヒカリ玄米):長さ 約5.2 mm

ゾウムシ類の幼虫は、穀物の内部を食べて大きくなり、その中で蛹になりますが、穀物より大きなサイズにはなれません。



グラナリアコクゾウムシ:
Granary (Wheat) weevil (*Sitophilus granaries* (L.))

ムギで育てた場合、体長は約4.8 mmでした。
ジャポニカ種の玄米では育つのでしょうか？育った場合には体長はどの程度なのでしょうか？

「体長半自動計測法」※
で比較

もし同じような大きさになった場合、
外観ではどの程度見分けが
付くのか調査します。



コクゾウムシ:
Maize weevil (*Sitophilus zeamais* Motschulsky)

コメで育てた場合、体長は約4.0 mmでした。

今後の展開

・穀類や穀類の加工品を用いて、生育可能性や体長等を調べ、同定手法開発のための礎とします。

参 考

※ 曲山ら、「ゾウムシ類成虫の体長半自動計測法の開発」、都市有害生物管理、7(1)、1-9(2017)



農研機構
食品研究部門

代表研究者: 古井 聡
所 属: 食品安全研究領域
食品害虫ユニット